

# いわて復興だより

がんばろう！岩手 つなごろう！岩手

## 三陸復興

第96号

平成27年11月15日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

鮮やかに彩った山々の落陽も進み、訪れる冬への支度も始まる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

## 「復興の現場見学会」が開催されました

久慈市・野田村

平成27年10月31日（土）、「復興の現場見学会」（主催：岩手県）が行われ、久慈地域や二戸地域の住民28人が参加しました。

見学会は、東日本大震災津波の記憶と教訓の風化を防ぐとともに、復旧・復興状況を住民に理解してもらうことを目的に行われたもので、昨年度に引き続き今回で2回目。

参加者は、まず、城内（じょうない）地区高台団地（野田村）を見学。同団地では、自力主再建住宅20戸、

災害公営住宅54戸の計74戸（区画面積330㎡/戸）が整備されており、年度内の完成を目指しています。

続いて、国道45号線を起点に三陸沿岸道路（仮称）野田インターチェンジに接続する延長約1.5kmの新しい県道・野田山形線（野田村）の整備の様子を見学。現在は、地盤改良と盛土工事が進められており、平成29年度の開通を目指しています。

三陸沿岸道路（普代～久慈）の国道45号宇部トンネル（久慈市）の工

事現場では、参加者はトンネル内を徒歩で見学。幅12m、延長446mの宇部トンネルは掘削工事が完了しており、平成28年3月の完成を目指しています。

最後に、平成27年4月26日（日）に本格オープンした小袖海女センター（久慈市）を見学し、現場見学会は終了しました。

参加者は、「トンネル工事等、なかなか見ることができない現場を見せて頂いた。少しずつ確実に元通りに戻ってきていて、今まで以上に良い感じになっている。」と見学会の感想を述べました。



「城内地区高台団地」見学の様子



「宇部トンネル」工事現場見学の様子



「小袖海女センター」がある小袖海岸見学の様子

## 「新校舎」に愛着を 大槌学園生徒が寄せ書き

大槌町

平成27年10月22日（木）と23日（金）の両日、大槌町の小中一貫教育校「大槌学園」の児童・生徒と教職員およそ730人が、建設が進む新校舎に使用する建材に寄せ書きをしました。

大槌学園は、東日本大震災津波で被災した4つの小学校（大槌小、安渡小、赤浜小、大槌北小）が合併された大槌小学校と被災した大槌中学校が統合し、平成27年4月に誕生した小中一貫教育の学校です。

この寄せ書きは、新たな学園生活への期待と愛着を深めてもらおうと企画されたもので、児童・生徒らは、幅1m、長さ7mの建材に「大槌を笑顔に」「最高の学園にしたい」「勉強を頑張りたい」などそれぞれの夢や想いを

書き込みました。

現在、児童・生徒らは仮設校舎で学んでおり、高台に建設中の新校舎は平成28年9月に完成する予定で、寄せ書きされた建材は新校舎の教室の天井裏に設置されることになっています。



新校舎に使う建材に寄せ書きをする児童（写真提供：大槌町）

三陸だより

## 「カキ」のシーズン到来！ 山田町・大船渡市・陸前高田市

岩手県三陸沿岸の特産品を代表する「カキ」。各地の「かき小屋」では、「殻付きカキ食べ放題」等、新鮮な旬のカキをお楽しみ頂けます。

【お問い合わせ】

山田町▶山田町観光協会 ☎：0193-84-3775

大船渡市▶漁師のかき小屋（大船渡おさかなセンター内）☎：0192-26-4788

陸前高田市▶かき小屋 広田湾 ☎：090-8784-2114（予約専用）



# 復活する“まつり”が復興の励みに

## 広田湾大漁まつり 陸前高田市

平成 27 年 10 月 25 日（日）、「広田湾大漁まつり（主催：広田湾大漁まつり実行委員会）」が 5 年ぶりに開催され、新鮮な海の幸を買い求めようと大勢の人たちが訪れました。

会場となった陸前高田市広田町の広田漁港荷さばき施設では、カキやホタテ、アワビ、エゾイシカゲガイ、ワカメなど地元産の海産物の販売やサンマやサバの詰め放題などが行われ、大行列ができるなど多くの来場者で賑わいました。

また、会場内に設けられたサケのつかみ捕りやカキの殻むき体験のコーナーも人気を集める中、海産物の炭火焼きコーナーでは、来場者が広田湾の海の幸を堪能していました。

5 年ぶりに再開したまつりは、浜の活力を感じさせ、被災沿岸地域の復興を感じる一日となりました。



餅まきで賑わう会場の様子  
(写真提供：陸前高田市)

## 熊野神社式年大祭（五年祭） 大船渡市

平成 27 年 10 月 31 日（土）、大船渡市末崎（まっさき）町の熊野神社で、4 年に一度行われる「熊野神社式年大祭（五年祭）」が 8 年ぶりに開催され、大勢の人たちで賑わいました。

式年大祭は、4 年前の今回は東日本大震災津波の影響で中止となり、今回は 8 年ぶりの復活となりました。

式年大祭には、同町 9 地域の祭組が参加。虎舞や権現舞を奉納し、同神社の境内で、長さ 16.2m のはしごを使って舞い踊る平組の「はしご虎舞」が披露されると、観客から大きな拍手と歓声が起こりました。

その後、9 地域の祭組や稚児行列など総勢 400 人以上が行列を作って賑やかに地域を練り歩きました。

祭りは、伝統芸能の伝承の場となるとともに、地域住民の交流の場としての役割を担い、その復活は、地域活性につながると期待されます。

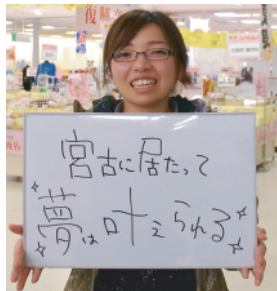


まつり会場で披露される郷土芸能  
(写真提供：大船渡市（デジタル公民館まっさき）運営協議会)

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第 48 回目は、石崎 絵理さんを紹介します。

## 未来の さんりく びと

Art Eriy' s (アートエリーズ)  
イラストレーター  
石崎 絵理  
(いしざき えり) さん



石崎さんからのひと言：  
宮古に居たって  
夢は叶えられる

かれたポストカードの製作を始めました。

その作品は多くの人から共感を得、今は宮古市の力になりたいと、作品の幅を広げ、創作活動の日々を送っています。

「自分たちが活動することで、宮古の人たちをもっと元気になればいい。若い人たちが宮古でもこういうことが出来るんだと、思ってもらえるきっかけになれば。」と、活動への想いを語ります。

### 若い人たちが宮古市を変えていく

「みんな震災から頑張ってきて、生活も落ち着いてきた感じもあるし、心の傷も徐々に癒えつつあると思います。」と復興の印象を話す石崎さん。「宮古市は観光のイメージが強いが、いつまで復興の為に沢山の人が足を運んでくれるか不安はあります。これからは若い人たちが大人を引っ張って行く番。“宮古市のここはこうしたほうがいい。”と思うだけでなく、実行してほしい。“自分たちが変える”という気持ちを持ちたい。」と宮古市への想いを語りました。

### PROFILE

宮古市出身。  
絵を描く仕事につきたいと思い、高校卒業後、横浜の短大でイラストやグラフィックデザインを学ぶ。短大卒業後は、都内でアルバイトをしながら絵を書きためていた。現在は宮古市に戻り、イラストレーター「おーみえり」の名前でポストカードやステッカー、絵本などの製作を行っている。

### 自分たちの活動が宮古市の刺激に

イラストレーターとして活躍する石崎さんは、東京から宮古市に帰省した際に被災し、そのまま宮古市にとどまりました。

被災当時は、絵なんか描いている場合ではないと思っていた石崎さんは、ある日、襖に絵を描いたら家族が笑ってくれ、絵を描くことで傷ついた人を癒せることに気付き、絵と文字が描

### 岩手県の被害状況

平成 27 年 10 月 31 日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672 人 行方不明者：1,126 人
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 26,165 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

### 皆様のご支援、ありがとうございます

平成 27 年 10 月 31 日現在

- ▶ 義援金受付状況 約 184 億 1,415 万円 (92,208 件)
- ▶ 寄付金受付状況 約 197 億 1,038 万円 (7,503 件)
- ▶ いわての学び希望基金（※）受付状況 約 77 億 7,931 万円 (16,429 件)

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより [Web](#)】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第 96 号 平成 27 年 11 月 15 日号 企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

[いわて復興だより](#)

[検索](#)

編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 12 月 1 日号の発行を予定しています。